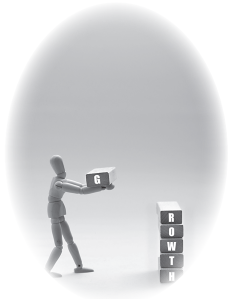
特集　元気な中小企業訪問記14

## 第２章
# クスッと笑えるけれど本格派
# 地域資源を活用した石窯ピザ屋

**千葉県富津市　株式会社 GONZO**




山下　学
東京都中小企業診断士協会

会社名：株式会社 GONZO
代　表：代表取締役社長　福倉　光幸
資本金：300万円
従業員：16名
所在地：千葉県富津市金谷3869-2
連絡先：TEL：090-1439-5030
ＵＲＬ：http://pizzagonzo.jp/kanaya.php

千葉県富津市金谷にある Pizza Gonzo は，内閣府が地方創生事業の一環として行った「農村の６次産業起業人材育成プロジェクト」を活用し，学生時代にこの地に移住した同社代表取締役社長の福倉光幸さんが開業した石窯ピザ屋だ。地元の食材と石窯を使ってピザを提供している。

６次産業化とは１次・２次・３次産業を融合し，新たな産業を形成することを意味するが，雇用の創出や地域の風土・文化の保全といったメリットもある。福倉さんの取組みは，まさにそのモデルケースといえる。

実は富津市金谷はここ数年，都市部から移住して起業する若者が目立って増えている異例の地域となっている。UIターンを含めた起業家の活躍による地方創生。その先鞭をつけた福倉さんを訪ねた。

## １．クスッと笑えるオリジナルのピザ

「いらっしゃいませ！」

切り立った岩峰をなす千葉県の名山，鋸山を眺めながら国道127号線を歩き，裏通りに入ること200m。見えてきた「観光案内所・石の舎」と書かれた建物の扉を開けると，店員の元気な声が迎えてくれた。

南欧の海辺にあるカフェを思わせる空間には，６つのテーブル席とカウンター席。開放的でどこかホッとする雰囲気が漂う。

テーブルに置かれたメニューを見ると，「マルゲリータ」や「ゴルゴンゾーラ」といった定番ピザに加え，「ハマカナーヤ」，「アオクセーナ」といった妙な名前のピザがある。

「ハマカナーヤ」は地名の浜金谷から名づけられたピザ。メインの具材は地ダコだ。「アオクセーナ」は春菊を使ったピザ。ほかにも月替わりでオリジナルのピザが用意される。生海苔を使った「ナマノリータ」，自然薯を使った「ジネッチョ」。イカの塩辛を使った「ナマグセーカ」といった具合だ。

地名の浜金谷から名づけた「ハマカナーヤ」（提供：株式会社 GONZO）

学生時代に金谷に移住し，起業した福倉さん

「クスッと笑えて，食べてみようかなと思えるものを考えます」

そう話すのは，Pizza Gonzo の運営母体である株式会社 GONZO の福倉さん。今では２つの石窯ピザ屋に加え，宿泊事業も手がける起業家だ。

## ２．「田舎暮らしがしたい」と金谷に

鹿児島県で建設業に携わりながら通信制高校を卒業した福倉さんは，社会人入試で東京の大学に入学した。

「卒業したときは28歳でした。入学したときから，卒業後は就職ではなく，何か違う道を選んだほうがよいのではと考えてはいました」

漠然と田舎暮らしがしてみたいという思いもあり，福倉さんは「まちおこし」や「地域活性化」というキーワードにアンテナを張りながら学生生活を送っていた。

その思いと行動力は，さまざまな縁で現実のものへと向かっていく。都内で開かれた地域フォーラムに参加した福倉さんは，千葉県富津市金谷で大型観光施設「The Fish」を運営する鈴木裕士さんと出会う。鈴木さんは鋸山の房州石を採石する事業の元締めを担ってきた鈴木家の16代目当主で，金谷のまちおこしの推進役を担っている。

参加したフォーラムのコーディネーターを務めた観光地域プロデューサーの島田昌幸さんの薦めもあり，福倉さんは金谷を訪れてみることにした。

「海があって山があって，イメージどおりの田舎暮らしができそうでした」

暮らしていた川崎市の賃貸アパートが契約更新を迎える大学３年の春，福倉さんは金谷に移り住む。週に２～３回，２時間かけて大学に通い，残りの日は田んぼを耕したり，まちおこしのイベントに参加したりしながら田舎暮らしを謳歌していた。

## ３．ビジネスコンペで開業資金

そんなある日，鈴木さんから「鋸山の石で作った石窯があるから，何かやってみないか」と声をかけられた。

富津市金谷は鋸山の石で栄えた町。今も山の至るところに採石の跡が残る。房州石と呼ばれるこの地域の石は，耐久性に優れ，横浜港の護岸工事や靖国神社の塀下など，全国の建造物に利用されてきた。

その房州石で作った石窯で，福倉さんはピザを焼き始める。県内のピザ屋を訪ねて基本的な作り方を教わると，あとは独学で焼き続けた。仲間に振る舞ったら，評判は上々だった。何より楽しい。

この地で石窯ピザ屋ができたらと考え始めていた福倉さんに，すぐにチャンスが訪れる。内閣府の「農村の６次産業起業人材育成プロジェクト『農村六起』」がビジネスプランを募集していたのだ。

福倉さんは12ページに及ぶ「農山漁村の農作物および魚介類を活用した石窯ピザ屋」と題した事業計画書を提出した。農家や漁師と連携し，地域資源である房州石を活用した石窯プロジェクト。「ピザという商品で地域の課題を解決し，地域を活性化していく」という目標は，まさに「農村六起」が目指すものだった。

最終審査に進んだ福倉さんは，見事，数名の合格者の１人に選ばれ，開業資金の300万円を獲得した。大学を卒業して初めて迎える夏のことだった。

## ４．テレビ取材で爆発的に客足が伸びる

福倉さんの志に，地元の多くの人たちが共感してくれた。そして，「観光案内の仕事もするなら」と，鋸山の麓にある観光案内所の建物を提供してもらうことが決まった。

自らの手で観光案内所の内装工事をし，石窯を作り，そして食材の仕入れルートを開拓した福倉さんは，2011年３月，妻と２人でPizza Gonzoのオープンにこぎつけた。折しも時は，東日本大震災の直後。福倉さんの開業は地域の希望の光でもあった。

さっそく地元の新聞が取り上げると，やがてテレビや雑誌が次々と取材に訪れるようになった。

「観光案内所の看板があるのに，中に入るとピザ屋になっている。面白い名前のピザがあり，鋸山の石で作った石窯を使っている。そして，やっているのは移住してきたばかりの若い夫婦である。そんな要素が面白いということで取材をしてくれたのだと思います。2012年に入ると客足が爆発的に伸びました」

店の評判はSNSでどんどんと広がっていった。

「本格的なピザ屋さん」

「ここにしかない味！」

「居心地のよい空間です」

そんなコメントが写真とともに次々とSNSにアップされると，Pizza Gonzoはすっかり金谷の人気スポットとなった。

## ５．「石と芸術のまち　金谷」

顧客の中には外国人も少なくない。実は金谷は，外国人の間でも「ディープなスポット」として人気の地域なのだ。

富津市は東京湾に面し，海と山に囲まれた自然豊かな地域。鋸山やマザー牧場など，観光スポットも多い。中でも金谷は，徒歩圏内に半島の魅力が詰まっている。海と山が一体となった景観と，そこで育まれた文化が金谷の地域資源だ。鋸山の石切場跡に彫られた百尺観音をはじめ，エリア全体の景観そのものが芸術性と神秘性を持つ。外国人観光客が多い理由もそこにある。

都心から車で１時間程度。週末ともなれば，若者や家族連れなどの観光客でにぎわう。

一方，人口は1985年の４万5,000人をピークに減少を続けている。これに歯止めをかけようと，行政だけでなく民間も活発な活動を行っている。

中でも福倉さんの移住のきっかけを作った鈴木さんは「石と芸術のまち　金谷」を宣言し，美術館の設立をはじめとした芸術振興や移住促進などを進めている。

こうした活動が奏功し，人口1,500人ほどの金谷は，ここ数年で50人を超える若者が移住してくる異例の地域となっているのだ。

UIターンを含めた起業家を増やし，活力ある農山漁村を目指す。福倉さんが開業資金を得るときに描いた姿は着々と進んでいる。

福倉さんが房州石で作った石窯

鋸山の石切場跡に彫られた「百尺観音」

## 6．地域資源を生かした事業戦略

ここでPizza Gonzoが「元気な理由」を整理しておこう。

主な顧客は，週末を中心に観光に訪れる若者やファミリー層。立地は，海と山に囲まれた豊かな自然と文化を持つ富津市金谷。都心からのアクセスも良い。

主力商品は，ここでしか味わえない地元食材を使った本格派の石窯ピザ。価格は，割安感のある設定だ。プロモーションは，訪れた顧客自身がSNSで発信することで，評判が評判を呼ぶ好循環となっている。

こうした強みに加え，食材はもちろんのこと，日々必要な薪も自分たちで調達するなど，低コスト構造もでき上がっている。2015年には隣町の鋸南町に２号店もオープンした。

## 7．宿泊業も手がける

株式会社GONZOの「元気ぶり」は，これにとどまらない。福倉さんは２つの石窯ピザ屋の運営をスタッフに任せると，１棟貸しの宿泊事業に乗り出した。

金谷周辺には多くの空き家が点在する。そうした中から歴史ある古民家を改装し，観光などに訪れる家族や団体に１棟ごと貸し出すのだ。

「週末は家族や友人同士，平日は学生や社会人の研修合宿の利用が目立ちます」

今では４つの１棟貸し宿を運営している。この事業の展開は，石窯ピザ屋の運営にもメリットがあった。

「１棟貸し宿はだいたい３ヵ月後の予約が入ります。石窯ピザ屋にとっては今後の客足の動向をつかむことができるわけです」

こうした相乗効果に加え，宿泊事業は前金で運営しているため，財務体質の強化にも貢献している。

## 8．元気の源は経営者のマインドにあり

さまざまな展開が有機的に結合している経営である。だが福倉さんは，「たまたまうまい具合にそうなっただけ」と笑い飛ばす。

常に笑顔を絶やさず語る福倉さんを見ていると，こちらも楽しい気持ちになってくる。GONZOの元気の源は，福倉さん自身のマインドにあるのだと気づく。

将来の目標を尋ねると，このような答えが返ってきた。

「僕は５年後，10年後の大きな絵は描きませんし，描けません。でも１年に１つ，何か事業をやると決めているのです」

「趣味は仕事」と言う福倉さんだが，午後４時からは家族との時間と決めている。

「夜は酒を飲みながら，今度は何をしようかと妄想するのです」

開業資金を獲得したときに作った事業計画書のような説明はしない。その志は体に染み込んでいるのだろう。最後はこう締めた。

「根は詰めない。楽しくやることです」

笑顔でお客様を迎えるスタッフとともに

**山下　学**
（やました　まなぶ）
千葉県出身。テレビ局勤務。報道記者として活動後，営業，マーケティング，事業開発，経営企画などに従事。2020年中小企業診断士登録。